

高田援護室長の模型部屋(第8回)

皆さんこんにちは！戦争映画を見て触発されてプラモデルを作ろうと思ったことはありませんか？最近の戦争映画は本物やレプリカの戦車や車両を使用するので、私なんかはワクワクしながら見てしまいます。単純に戦う戦車や兵士の姿に「強さ」と「憧れ」を感じてしまうのです。で、自分でそれらを作りたくなるという・・・単純ですよ。で、数年前に太平洋戦争の記録映画を見て、無性に太平洋戦争時の米軍のM4戦車が作りたくなって、模型店に行ったら箱絵に南方戦線で戦うシャーマン戦車が・・・ということで、今回紹介するのは・・・

M4A2戦車です。



「M4A2 タラワ」との名称で販売されたドラゴン社のシャーマン戦車です。特に手を加えることなく、ストレートに組みました。キットの中にすでにエッチングパーツが梱包され、部品一つ一つの出来が精巧に出来ており、満足できるものでした。

いままで日本軍の戦車は作成していましたが、そのライバル(米国からは思われてなかった)たる戦車は作ったことが無かったので、当時の先輩方はどのような戦車を相手していたのかを知る良い機会になりました。

シャーマン戦車はたくさんの派生型があるので、私は詳しくはありませんが、少なくともこのタイプと戦っていたのは間違いないでしょう。「タラワの戦い」については触れませんが、日本軍が米海兵隊に苦戦を強いた戦いのひとつです。南洋の島々で散った方々を思うと胸が締め付けられます。日本を守るためにありがとうございました。夏季休暇で靖國神社に参拝した際、お礼を言ってきました・・・



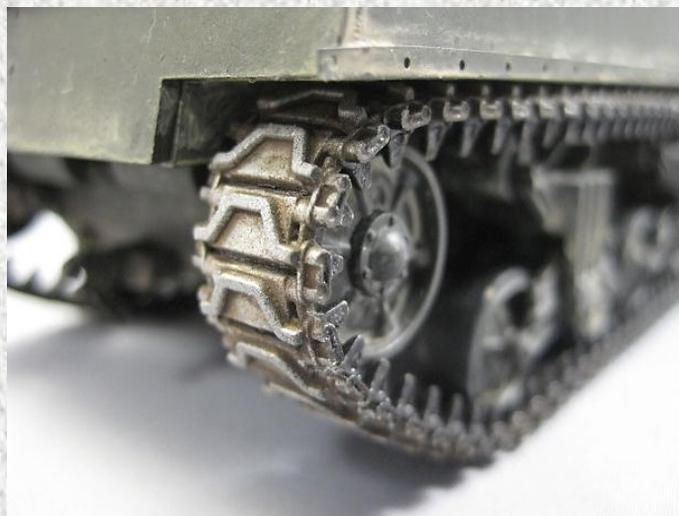
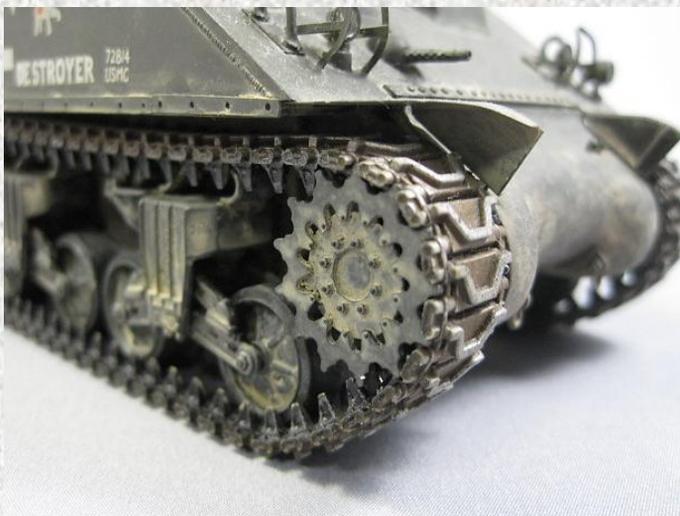
部品の合いもよく、エッチングパーツとプラパーツの選択式なので、技量に心配がある方でもすんなり組み立てられます。塗装にはアクリルタミヤのオーリーブドラブを使用し、タミヤのエナメルスミ入れ塗料でスミ入れ、仕上げにウェザリングスティックを擦り付けて濡れ綿棒で伸ばして擦り付けて拭き取り、徹底的に表面を埃で汚すとともに、光沢を消しました。



車体の角や砲塔の表面には擦れて塗装がはがれて地金が出た表現を施すために、鉛筆の芯の粉をうっすらと乗せて指で擦って表現します。分かりますかね？表面のゴツゴツ感が引き立ちます。



砂浜での戦闘が展開されたとの想定で、サンド色のウェザリングスティックで砂埃が凹部にたまった所を表現しました。もう少し錆を付着させても良かったかな。



履帯はベルト式ですが、そのまま使って問題ないほど精巧な出来です。お湯で丁寧に曲がり癖を直してブラック→黒鉄色→レッドブラウン→黒鉄色の擦りつけの順で重ね塗りました。



車体下部は泥がこびりつくので、ダークアース色のウェザリングスティックを厚めに塗り、さらに表面にサンド色のそれを重ね塗りました。あまり良く分かりませんが・・・



マスターボックスから発売されているフィギュアセットの「海兵隊タラワ戦1943」の海兵隊と並べて、戦闘シーンをイメージしてみました。日本兵のセットもあるのですが、それはまた今度。

日本兵の急襲に必死の形相で戦う海兵隊の姿が良く出来ています。負傷兵を背負って退却する姿もリアルです。映画「ザ・パシフィック」を彷彿とさせます・・



日本戦車を圧倒的な火力で撃破したシャーマン戦車も、ヨーロッパ戦線ではドイツ軍戦車相手に苦戦するんだから、兵器って「いたちごっこ」ですよね・・・

そして数年後、この戦車が日本を守る戦車として供与される・・・

さて、今回はここまで。
またお付き合いくださいな。